

令和7年 いちご(ゆめのか高設)栽培基準

県北地域農業振興協議会

安全・安心ないちご作りのため、機具洗浄の徹底並びに生産履歴の記帳を必ず行ってください

月	旬	生育ステージ	主要作業	作業の要点	備考
7	上中下	苗仕上げ期	本圃土づくり	<ul style="list-style-type: none"> 【土壌消毒】 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽熱消毒または土壌消毒剤で処理 目標収量:7.5t/10a 【基肥施用】 <ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析は必ず行い、結果に基づいた基肥施用を行う 【栽植様式】 <ul style="list-style-type: none"> ・株間20cm、千鳥2条植え(7,000株/10a) 	微量要素(ミネラル)の畝施用 ・連作5年未満 10kg/10a ・連作5年以上 20kg/10a
8	中下		1番花 花芽分化	<ul style="list-style-type: none"> 【定植】 <ul style="list-style-type: none"> ・必ず花芽検鏡を行い、適期に定植する ・定植前に寒冷紗等を張り、下温処理を 	
9	中下	花芽分化	<ul style="list-style-type: none"> 【定植】 <ul style="list-style-type: none"> ・必ず花芽検鏡を行い、適期に定植する ・定植前に寒冷紗等を張り、下温処理を 【活着促進】 <ul style="list-style-type: none"> ・定植後は常にクラウン部が湿った状態を保ち、定植7日後までに活着させる 【追肥】 <ul style="list-style-type: none"> ・2番花分化確認後、施用する 	【パーク堆肥の施用】 株元に施用し、クラウン部の乾燥を防ぐ。(100袋/10a) かん水チューブは1畝2本設置する。	
10	中下	根部伸長期	2番花 花芽分化	<ul style="list-style-type: none"> 【マルチ被覆】 <ul style="list-style-type: none"> ・2番花分化確認後、10月中旬頃より被覆する ・被覆後は高温の場合、裾はめくっておく 【病害虫防除】 <ul style="list-style-type: none"> ・ハダニ・ヨトウムシ等が発生しやすいのでビニール被覆前に防除を行う 	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククメリス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラパチ
11	中下	出蕾開花	<ul style="list-style-type: none"> 【ピニール被覆】 <ul style="list-style-type: none"> ・第1果房が出蕾～開花する頃に行う ※ 可能な限り、2番花分化確認後行う 【摘花・摘果】 <ul style="list-style-type: none"> ・被覆後は高温になりやすいので、サイド、妻面は全開にする 【休眠防止対策(電照)】 <ul style="list-style-type: none"> ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない(30cm以下目安) 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2～3時間スタート(最大6時間) 【ジ・レリン処理】 <ul style="list-style-type: none"> ・無加温、無電照では必要に応じて散布する ・5ppm、14日間隔で芯葉を中心に2枚目くらいまで散布 【炭酸ガスの施用】 <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスを夜間密閉するところから稼働させ、日の出以降炭酸ガスが400ppmを切らないように施用する。 【芽の整理】 <ul style="list-style-type: none"> ・11月中旬～収穫開始までは定期的に腋芽・ドロ芽は確実に除去し、年内は基本1芽に整理する 	【温度管理】 ●11月 午前中は早朝換気を行い、ハウス内湿度を下げる。日中は25℃以上にならないよう換気する。 午後は、20℃以上にならないよう換気する。夜間は8℃以上は開放。 ●果梗枝が出蕾時の散布は控える ●加温・電照ハウスでも谷下・サイドなど冷える箇所への散布は有効 ●12～3月上旬 午前中は21℃になったら1回すかし換気を行い、その後30℃以上になれば換気を行う。午後は27～28℃(換気した状態で)。夕方は20℃を下回らないように閉める。最低夜温6℃。 ※厳寒期は日中加温する(15℃以上)	
12	中下	収穫期	<ul style="list-style-type: none"> 【摘果】 <ul style="list-style-type: none"> ・摘果は頂果が肥大する頃までに草勢の状況に応じて実施する ・第1果房 草勢 強15果 中12果 弱10果以下 ・第2果房以降 :株あたり12～15果 摘果は草勢に応じて調整する 【葉除け・玉出し】 <ul style="list-style-type: none"> ・管理作業を行いやすくする 【電照打ち切り】 <ul style="list-style-type: none"> ・2月下旬 着果負担に関係なく、順調に芯葉が展開している状態 ・打ち切り後、展開葉が小さければ再電照する 【収穫】 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷基準に準じ、7分着色収穫へ切り替える。中2日以内の収穫 ・品温が上がってからの収穫はせず、品温の低い早朝収穫を徹底する 【品質向上対策】 <ul style="list-style-type: none"> ・果皮・果肉が傷まないよう取り扱いに注意し、予冷を十分かける ・色むら果にならないよう玉出しや温度管理、かん水等は適期管理を行う 	●2重カーテンを設置するなど、厳寒期はハウス内温度の確保に努める 【病害虫防除】 ハダニ、アザミウマ類は発生初期の防除を徹底する ※天敵利用の場合は影響のある農業に注意する ※灰色かび病対策 ・予防散布を徹底する ・花卉を除去する ・循環扇の利用 ・夜間の湿度95%が2時間以上続かないようにする ・夜間強制加温と、早朝強制加温(4段サーモ設定例) 2時:20℃、2時半:3℃ 4時半:20℃、5時:3℃ ●夜温8℃以上になったらハウスを全開放する ●肥料切れによる品質低下に注意する	
1	中下	<ul style="list-style-type: none"> 【追肥及びかん水】 <ul style="list-style-type: none"> ・ゆめのかは不定根が多く、吸水量も多い ・発根促進剤を月に3回施用する。例)美果多 5kg/10a/回 ・頂果の着色開始時期より、7～10日に1回N成分0.1～0.2kg/10a程度施用する 草勢が強い場合は収穫開始期より追肥する。 ・春先まで確実に追肥し、最後まで草勢を落とさない ・液肥の種類は有機主体で行う。 例)新園芸アミノ1号、2号、キッポ、液体ジャンプ、アミノキャッチN等 ・穴肥を施用し、草勢維持に努める(目安は1月から開始) 			
2	中下	<ul style="list-style-type: none"> 【摘果】 <ul style="list-style-type: none"> ・摘果は頂果が肥大する頃までに草勢の状況に応じて実施する ・第1果房 草勢 強15果 中12果 弱10果以下 ・第2果房以降 :株あたり12～15果 摘果は草勢に応じて調整する 			
3	中下	<ul style="list-style-type: none"> 【電照打ち切り】 <ul style="list-style-type: none"> ・2月下旬 着果負担に関係なく、順調に芯葉が展開している状態 ・打ち切り後、展開葉が小さければ再電照する 【収穫】 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷基準に準じ、7分着色収穫へ切り替える。中2日以内の収穫 ・品温が上がってからの収穫はせず、品温の低い早朝収穫を徹底する 【品質向上対策】 <ul style="list-style-type: none"> ・果皮・果肉が傷まないよう取り扱いに注意し、予冷を十分かける ・色むら果にならないよう玉出しや温度管理、かん水等は適期管理を行う 			
4	5	<ul style="list-style-type: none"> 【下温処理】 <ul style="list-style-type: none"> ・3月上旬に下温処理(寒冷紗の設置、遮光剤の散布等)を行い、過熟果を防止す ・4月上旬以降、日射がさらに強くなるので再処理を行う 			

令和7年 いちご(ゆめのか地床)栽培基準

東北地域農業振興協議会

月	旬	生育ステージ	主要作業	作業の要点	備考	
7	上	苗仕上げ期	本圃土づくり	【土づくり】 ・稲わら・ソルゴー等のすき込み 【土壌消毒】 ・太陽熱消毒または土壌消毒剤で処理する 【基肥施用】 ・土壌分析は必ず行い、結果に基づいた基肥施用を行う 【畝立て】 ・夜冷、株冷は8月末、普通ポットは9月10日までに完了する ・必ず適湿の状態で行い、練り込まないようにする 【栽植様式】 〈外成り〉 高畝 高さ30~40cm (5,900~7,000株/10a) 株間22~25cm 畝幅130~135cm 〈内成り〉 株間22~23cm 畝幅140cm (6,200~6,500株)	目標収量:5t/10a 【定植時期の目安】 夜冷...9/15~9/25 株冷...9/13~25頃 ※ 基本的に普通ポット	ソルゴーは、本圃に6月上旬までに播種し7月中旬刈り込みすき込む 微量要素(ミネラックス)の畝施用
	中			1番花 花芽分化	【定植】 ・必ず花芽検鏡を行い、適期に定植する ・定植前に寒冷紗等を張り、下温処理を行う ・果梗枝が伸張するため、外なりでは条間25cm程度に寄せ植える 【活着促進】 ・定植後は常にクラウン部が湿った状態を保ち、定植7日後までに活着させる 【追肥】 ・2番花分化確認後、施用する 【マルチ被覆】 ・2番花分化確認後、10月中旬頃より被覆する ・被覆後は、高温の場合は、裾はめくっておく 【病害虫防除】 ・ハダニ・ヨトウムシ等が発生しやすいのでビニール被覆前に防除を行う 【ビニール被覆】 ・1番花が出蕾~開花する頃に行う ※ 可能な限り2番花分化確認後行う ・被覆後は高温になりやすいのでサイド、裏面は全開にする	【パーク堆肥の施用】 株元に施用し、クラウン部の乾燥を防ぐ(100袋/10a) ●ハダニ類・ヨトウムシ類対策のかん注処理 株冷入庫前か定植前日に弱めの水圧で葉の上からかん注する
8	上	花芽分化	下温処理	【定植】 ・必ず花芽検鏡を行い、適期に定植する ・定植前に寒冷紗等を張り、下温処理を行う ・果梗枝が伸張するため、外なりでは条間25cm程度に寄せ植える 【活着促進】 ・定植後は常にクラウン部が湿った状態を保ち、定植7日後までに活着させる 【追肥】 ・2番花分化確認後、施用する 【マルチ被覆】 ・2番花分化確認後、10月中旬頃より被覆する ・被覆後は、高温の場合は、裾はめくっておく 【病害虫防除】 ・ハダニ・ヨトウムシ等が発生しやすいのでビニール被覆前に防除を行う 【ビニール被覆】 ・1番花が出蕾~開花する頃に行う ※ 可能な限り2番花分化確認後行う ・被覆後は高温になりやすいのでサイド、裏面は全開にする	かん水チューブは1畝2本設置する。	
	中					2番花 花芽分化
9	上	根部伸長期	定植(夜冷)	【定植】 ・必ず花芽検鏡を行い、適期に定植する ・定植前に寒冷紗等を張り、下温処理を行う ・果梗枝が伸張するため、外なりでは条間25cm程度に寄せ植える 【活着促進】 ・定植後は常にクラウン部が湿った状態を保ち、定植7日後までに活着させる 【追肥】 ・2番花分化確認後、施用する 【マルチ被覆】 ・2番花分化確認後、10月中旬頃より被覆する ・被覆後は、高温の場合は、裾はめくっておく 【病害虫防除】 ・ハダニ・ヨトウムシ等が発生しやすいのでビニール被覆前に防除を行う 【ビニール被覆】 ・1番花が出蕾~開花する頃に行う ※ 可能な限り2番花分化確認後行う ・被覆後は高温になりやすいのでサイド、裏面は全開にする	かん水チューブは1畝2本設置する。	
	中					2番花 花芽分化
10	上	出蕾開花	追肥 マルチ被覆 ビニール被覆	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化
11	上	収穫期	摘花、摘果	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化
12	上	収穫期	摘花、摘果	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化
1	上	収穫期	摘花、摘果	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化
2	上	収穫期	摘花、摘果	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化
3	上	収穫期	摘花、摘果	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化
4	上	収穫期	摘花、摘果	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化
5	上	収穫期	摘花、摘果	【休眠防止対策(電照)】 ・電照は芯葉の色、状態、着果負担を考慮し、頂果着色頃に開始を検討する ・年内に草高を伸ばしすぎない 開始時期(目安):頂果収穫開始頃 処理時間:日長延長型 連続2~3時間スタート(最大6時間)	【天敵の利用】 必ず天敵放飼前に薬剤防除を行い、害虫密度をゼロにしてから放飼する。 ハダニ類:チリ・ミヤコカブリダニ アザミウマ類:ククミス・リモニカスカブリダニ アブラムシ類:コレマンアブラバチ	
	中					2番花 花芽分化

安全安心ないちご作りのため、機具洗浄の徹底並びに生産履歴の記載を必ず行ってください